

アケビコノハ

6～7月にアケビやメギの葉を食べるイモムシ（幼虫）。最大長約75mm。体は黒色、茶色、または緑色。背中に2対の目玉模様がある。刺激すると体を曲げて、目玉模様のある部分を突き出し、尾端を上げる。

庭などでときどき多発する。成虫はリンゴやナシなどの果実を加害する。



1. 幼虫，体長40mm，1995/7/7. 美唄市，ミツバアケビ。 2. 雄成虫，体長30mm。1を飼育。

【学名】 *Adris tyrannus*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ヤガ科 (Noctuidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州，琉球；アム-ル，中国，台湾，東南アジア，インド。

【特徴】

幼虫は終齢で体長60～75mm。体は緑色～暗褐色，セミルーパーで腹部第4節の腹脚が退化している。腹部第2～3節各背面に1対の眼状紋を持つのが特徴。目玉模様を持つ代表的な昆虫である。

【生態】

アケビ科，メギ科，ツツラフジ科の樹木につく。

年2化，成虫越冬，幼虫は5～6月と7～9月に出現するといわれている（文献1965）。

北海道の低地では老齢幼虫が7月に採れ，室内飼育したところ8月に成虫が羽化したので，年1化のように思われる。

【被害と防除】

庭木で多発することがある。多発は1年で終わり，食害による樹勢の低下や枯死は報告がない。気になるときは幼虫を取り除いて駆除する。

成虫は果樹の害虫で，果樹園では防除が行われている。

【文献】

1965. 一色周知監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑 (上) : 1-238, pls 1-60. 保育社, 大阪.
1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.
1987. 杉敏郎編集. 日本産蛾類生態図鑑 : 1-453, pls 1-120. 講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

アケビコノハyaga/akebiko/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1996/5/17-2001/10/6.

1yochu.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～2」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1995.